

境川等水域における水生生物保全環境基準の水域類型の指定に関する調査結果等について

1 調査概要

(1) 調査期間

平成22年5月から平成23年3月まで

(2) 調査機関

民間環境調査会社に委託

(3) 調査内容

平成18年6月に環境省が制定した「環境基本法に基づく水質環境基準の類型指定及び水質汚濁防止法に基づく常時監視等の処理基準」に示された「水生生物保全環境基準の水域類型の指定に必要な情報の把握について」に基づき、以下の調査を行った。

- ・水生生物調査
- ・河川調査
- ・ヒアリング調査
- ・水質調査
- ・既存資料調査

これらの調査結果を3ページ以降に整理した。

(4) 対象河川・湖沼及び概要

境川等水域の対象河川・湖沼及びそれらの概要は次表のとおりである。

表 境川等水域の対象河川の概要

河川・湖沼名 (等級)	河川延長 (km)	水域名 (県域内)	BOD等の類型	漁業権	禁魚区	保護水面 (注)	水道利用
境川 (二級)	約25	境川上流	B	なし	なし	なし	あり
		境川下流	C	なし	なし	なし	なし
逢妻川 (二級)	約11	逢妻川上流	D	なし	なし	なし	なし
		逢妻川下流	D	なし	なし	なし	なし
猿渡川 (二級)	約18	猿渡川	D	なし	なし	なし	なし
稗田川 (二級)	約5	稗田川	C	なし	なし	なし	なし
高浜川 (二級)	約3	高浜川	C	あり	なし	なし	なし
新川 (二級)	約2	新川	C	あり	なし	なし	なし
長田川 (二級)	約9	長田川	C	なし	なし	なし	なし
半場川 (二級)	約8	半場川	C	あり	なし	なし	なし
朝鮮川 (二級)	約5	朝鮮川	C	なし	なし	なし	なし
阿久比川 (二級)	約10	阿久比川	C	なし	なし	なし	なし
油ヶ淵 (二級)	—	油ヶ淵	湖沼B	あり	なし	なし	なし

注) 保護水面とは、水産動物が産卵し、稚魚が成育し、又は水産動植物の種苗が発生するのに適している水面であって、その保護培養のために必要な措置を講ずべき水面として、水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づき都道府県知事または農林水産大臣が指定する区域。

2 各対象河川・湖沼ごとの調査結果等

(1) 境川

<調査結果>

・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において、生物Bのウナギ、ギンブナ等の魚介類が確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

境川において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域^{※1}の当てはめを必要とする情報はなかった。

※1 特別域：水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域。水生生物保全環境基準の類型のうち、河川・湖沼については「生物特A」又は「生物特B」に該当する水域を指す。

・水質等の状況

平均水温^{※2}は、18～19℃程度であり、温水域とされる15℃以上であった。

なお、最高水温^{※3}は、30～31℃程度であった。

全亜鉛濃度^{※4}は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L以下）を新境橋では下回っていたが、境大橋では上回っていた。

※2 平均水温：平成17～21年度の年平均値の5年平均値である。

※3 最高水温：平成17～21年度の年最高値の5年平均値である。

※4 全亜鉛濃度：平成17～21年度の年平均値の5年平均値である。

(参考) 想定される類型

上記アの調査結果から、水域類型は、境川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「5年以内で可及的すみやかに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
境川（全域）	生物B	5年以内で可及的すみやかに達成

(2) 逢妻川

<調査結果>

・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において生物Bのウナギ、コイ等の魚介類が確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

逢妻川において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

・水質等の状況

平均水温は、18～19℃程度であり、温水域とされる15℃以上であった。

なお、最高水温は、29～30℃程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L以下）を上回っていた。

(参考) 想定される類型

上記アの調査結果から、水域類型は、逢妻川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「5年以内で可及的すみやかに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
逢妻川（全域）	生物B	5年以内で可及的すみやかに達成

(3) 猿渡川

<調査結果>

・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において生物Bのウナギ、コイ等の魚介類が確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

猿渡川において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

・水質等の状況

平均水温は、18℃程度であり、温水域とされる15℃以上であった。

なお、最高水温は、29℃程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L以下）を下回っていた。

(参考) 想定される類型

上記アの調査結果から、水域類型は、猿渡川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「直ちに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
猿渡川（全域）	生物B	直ちに達成

(4) 稗田川

<調査結果>

・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において生物Bのウナギ、コイ等の魚介類が確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

稗田川において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

・水質等の状況

平均水温は、18℃程度であり、温水域とされる15℃以上であった。

なお、最高水温は、29℃程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L以下）を下回っていた。

(参考) 想定される類型

上記アの調査結果から、水域類型は、稗田川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「直ちに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
稗田川（全域）	生物B	直ちに達成

(5) 高浜川

<調査結果>

・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において生物Bのボラが確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

高浜川において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

・水質等の状況

平均水温は、19℃程度であり、温水域とされる15℃以上であった。

なお、最高水温は、29℃程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L以下）を下回っていた。

(参考) 想定される類型

上記アの調査結果から、水域類型は、高浜川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「直ちに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
高浜川（全域）	生物B	直ちに達成

(6) 新川

<調査結果>

・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において生物Bのボラ、テナガエビが確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

新川において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

・水質等の状況

平均水温は、19℃程度であり、温水域とされる15℃以上であった。

なお、最高水温は、30℃程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L以下）を下回っていた。

(参考) 想定される類型

上記アの調査結果から、水域類型は、新川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「直ちに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
新川（全域）	生物B	直ちに達成

(7) 長田川

<調査結果>

・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において生物Bのコイ、フナ属等の魚介類が確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

長田川において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

・水質等の状況

平均水温は、18℃程度であり、温水域とされる15℃以上であった。

なお、最高水温は、28℃程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L以下）と同程度であった。

(参考) 想定される類型

上記アの調査結果から、水域類型は、長田川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「直ちに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
長田川（全域）	生物B	直ちに達成

(8) 半場川

<調査結果>

・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において生物Bのウナギ、コイ等の魚介類が確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

半場川において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

・水質等の状況

平均水温は、17℃程度であり、温水域とされる15℃以上であった。

なお、最高水温は、28℃程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L以下）を下回っていた。

(参考) 想定される類型

上記アの調査結果から、水域類型は、半場川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「直ちに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
半場川（全域）	生物B	直ちに達成

(9) 朝鮮川

<調査結果>

・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において生物Bのコイ、フナ属等の魚介類が確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

朝鮮川において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

・水質等の状況

平均水温は、19℃程度であり、温水域とされる15℃以上であった。

なお、最高水温は、29℃程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L以下）と同程度であった。

(参考) 想定される類型

上記アの調査結果から、水域類型は、朝鮮川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「直ちに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
朝鮮川（全域）	生物B	直ちに達成

(10) 阿久比川

<調査結果>

・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において生物Bのコイ、フナ属等の魚介類が確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

阿久比川において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

・水質等の状況

平均水温は、20℃程度であり、温水域とされる15℃以上であった。

なお、最高水温は、32℃程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L以下）を下回っていた。

(参考) 想定される類型

上記アの調査結果から、水域類型は、阿久比川全域が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「直ちに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
阿久比川（全域）	生物B	直ちに達成

(11) 油ヶ淵

<調査結果>

・魚介類の生息状況

既存調査及び現地調査において生物Bのコイ、フナ属等の魚介類が確認されたが、生物Aの魚介類は確認されなかった。

油ヶ淵において水産資源保護法（昭和26年法律第313号）に基づく保護水面の設定はない。このほか、本調査からは水生生物保全環境基準に係る類型指定において特別域の当てはめを必要とする情報はなかった。

・水質等の状況

平均水温は、18℃程度であり、温水域とされる15℃以上であった。

なお、最高水温は、30℃程度であった。

全亜鉛濃度は、「生物A」・「生物B」の環境基準値（0.03mg/L以下）を下回っていた。

(参考) 想定される類型

上記アの調査結果から、水域類型は、油ヶ淵が生物Bに相当すると考えられる。

達成期間は、「直ちに達成」とすることが適当であると考えられる。

これらをまとめると次表のとおりである。

水域	類型	達成期間
油ヶ淵（全域）	湖沼生物B	直ちに達成

3 調査結果等取りまとめ

調査結果及び類型指定案については、次表のとおりである。また、各対象河川・湖沼ごとの調査結果については、次ページ以降に示す。

調査結果等総括表

河川・湖沼名	水域名	BOD等類型	現地調査結果						公共用水域調査結果		(参考) 想定される類型		
			水生生物生息状況			魚類放流 ※2			保護水面 ※3	平均水温 (°C) ※4	全亜鉛濃度平均値と0.03mg/lとの比較 ※5	類型	達成期間
			生物調査		ヒアリング ※1	生物A該当種	生物B該当種						
			生物A該当種の確認の有無	生物B該当種の確認の有無									
境川	境川上流	B	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	0.03未満	生物B	5年以内で可及的 すみやかに達成	
	境川下流	C	無	有					15以上	0.03より大きい			
逢妻川	逢妻川上流	D	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	0.03より大きい	生物B	5年以内で可及的 すみやかに達成	
	逢妻川下流		無	有					15以上	0.03より大きい			
猿渡川	猿渡川	D	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	0.03未満	生物B	直ちに達成	
稗田川	稗田川	C	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	0.03未満	生物B	直ちに達成	
高浜川	高浜川	C	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	0.03未満	生物B	直ちに達成	
新川	新川	C	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	0.03未満	生物B	直ちに達成	
長田川	長田川	C	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	0.03程度	生物B	直ちに達成	
半場川	半場川	C	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	0.03未満	生物B	直ちに達成	
朝鮮川	朝鮮川	C	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	0.03程度	生物B	直ちに達成	
阿久比川	阿久比川	C	無	有	生物A該当種 確認なし	無	無	無	15以上	0.03未満	生物B	直ちに達成	
油ヶ淵	油ヶ淵	湖沼B	無	有	生物A該当種 確認なし	無	有	無	15以上	0.03未満	生物B	直ちに達成	

注) ※1 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲

※2 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲

※3 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている水域など

※4 [平均水温] 平成17～21年度の年平均値の5年平均値を、温水域と冷水域を区分する目安とされる平均水温15℃と比較

※5 [全亜鉛濃度平均値と0.03mg/lとの比較] 平成17～21年度の年平均値の5年平均値と水生生物の環境基準値(0.03mg/l)との比較

(1) 境川

水域名	BOD等類型	地点名	環境基準点等	現地調査結果							公共用水域調査結果			(参考) 想定される類型				
				水生生物生息状況 ※1		魚類放流 ※3		保護水面 ※4	河床状況	主な横断構造物	魚道	水温(℃) ※5		全亜鉛濃度	類型	達成期間		
				生物調査		ヒアリング ※2	生物A該当種					生物B該当種	平均水温				最高水温	平均値 ※6
				生物A該当種	生物B該当種			確認の有無	確認の有無									
境川上流	B	広久伝橋		無	有	生物A該当種確認なし	無	無	無	礫砂	無	落差工				生物B	5年以内で可及的 すみやかに達成	
		寺田橋											落差工					
		東名高速道路橋梁											落差工					
		諸輪橋											落差工					
		通学橋		無	有								落差工					
		郡界橋											落差工					
		山伏橋											堰・落差工					
		伊勢湾岸自動車道橋梁											落差工					
		新境橋	基準点										落差工	18.9	31.2			0.02
境川下流	C	清水橋		無	有	砂	無	無	泥	無	無	落差工	18.1	30.4	0.04			
		境大橋	基準点										落差工					
		境橋		無	有													
		境川橋																

注) ※1 調査で確認された魚類 生物B該当種：(境川上流) ギンブナ、フナ属、オイカワ など
(境川下流) ウナギ、コイ、フナ属 など

※2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲

※3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲

※4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている水域など

※5 [水温] 平均水温：平成17～21年度の年平均値の5年平均値、最高水温：平成17～21年度の年最高値の5年平均値

※6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成17～21年度の年平均値の5年平均値

(3) 猿渡川

水域名	BOD等類型	地点名	環境基準点等	現地調査結果							公共用水域調査結果			(参考) 想定される類型			
				水生生物生息状況 ※1		魚類放流 ※3		保護水面 ※4	河床状況	主な横断構造物	魚道	水温(℃) ※5		全亜鉛濃度	類型	達成期間	
				生物調査		ヒアリング ※2	生物A該当種					生物B該当種	平均水温				最高水温
				生物A該当種	生物B該当種									確認の有無			
猿渡川	D	東名高速自動車道大橋		無	有	生物A該当種確認なし	無	無	無	礫砂	堰・落差工	無			生物B	直ちに達成	
		伊勢湾岸自動車道橋梁									堰・落差工						
		清水下橋									堰・落差工						
		猿渡川橋									落差工						
		弘法橋		無	有						落差工						
		JR東海道新幹線橋梁									無						
		三ツ又橋	基準点								落差工		18.1	29.3			0.02
		ミササガ橋		無	有												
		猿渡大橋								砂泥							

- 注) ※1 調査で確認された魚類 生物B該当種：ウナギ、コイ、フナ属 など
 ※2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲
 ※3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲
 ※4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている水域など
 ※5 [水温] 平均水温：平成17～21年度の年平均値の5年平均値、最高水温：平成17～21年度の年最高値の5年平均値
 ※6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成17～21年度の年平均値の5年平均値

(4) 稗田川

水 域 名	B O D 等 類 型	地 点 名	環 境 基 準 点 等	現地調査結果							公共用水域調査結果			(参考) 想定される類型					
				水生生物生息状況 ※1		魚類放流 ※3		保護 水面 ※4	河床 状況	主な 横断 構造物	魚 道	水温 (°C) ※5		全亜鉛濃度 平均値 ※6	類 型	達 成 期 間			
				生物調査		ヒアリング ※2	生物A 該当種					生物B 該当種	平均水温				最高水温		
				生物A 該当種	生物B 該当種			確認の有無	確認の有無										
稗田川	C	高棚橋			な し 生 物 A 該 当 種 確 認	無	無	無	コクリ	無	無			生物B	直 ち に 達 成				
		土井ノ内橋																	
		新高取橋		無								有							
		法響橋																	
		稗田橋	基準点														18.3	29.0	0.02
		高浜川合流部																	

- 注) ※1 調査で確認された魚類 生物B該当種：ウナギ、コイ、オイカワ など
 ※2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲
 ※3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲
 ※4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている水域など
 ※5 [水温] 平均水温：平成 17～21 年度の年平均値の 5 年平均値、 最高水温：平成 17～21 年度の年最高値の 5 年平均値
 ※6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成 17～21 年度の年平均値の 5 年平均値

(5) 高浜川

水域名	BOD等類型	地点名	環境基準点等	現地調査結果								公共用水域調査結果			(参考) 想定される類型				
				水生生物生息状況 ※1		魚類放流 ※3		保護水面 ※4	河床状況	主な横断構造物	魚道	水温(℃) ※5		全亜鉛濃度	類型	達成期間			
				生物調査		ヒアリング ※2	生物A該当種					生物B該当種	平均水温				最高水温	平均値 ※6	
				生物A該当種	生物B該当種			確認の有無	確認の有無										
高浜川	C	油ヶ淵			生物A該当種 確認なし	無	無	無	礫	無	無				生物B	直ちに達成			
		明治橋																	
		一文字橋																	
		高浜川水門																	
		高浜橋	基準点															18.7	29.4
汐留橋		無	有																

- 注) ※1 調査で確認された魚類 生物B該当種：ボラ
 ※2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲
 ※3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲
 ※4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている水域など
 ※5 [水温] 平均水温：平成17～21年度の年平均値の5年平均値、最高水温：平成17～21年度の年最高値の5年平均値
 ※6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成17～21年度の年平均値の5年平均値

(6) 新川

水域名	BOD等類型	地点名	環境基準点等	現地調査結果								公共用水域調査結果			(参考) 想定される類型		
				水生生物生息状況 ※1		魚類放流 ※3		保護水面 ※4	河床状況	主な横断構造物	魚道	水温(℃) ※5		全亜鉛濃度	類型	達成期間	
				生物調査		ヒアリング ※2	生物A該当種					生物B該当種	平均水温				最高水温
				生物A該当種	生物B該当種			確認の有無	確認の有無								
新川	C	油ヶ淵			生物A該当種 確認なし	無	無	無	砂礫	無	無				生物B	直ちに達成	
		曳船橋								樋門							
		新川樋門								無							
		権江橋		無						有							
		水門橋	基準点									19.0	30.3	0.02			
港新川橋																	

- 注) ※1 調査で確認された魚類 生物B該当種：ボラ、テナガエビ
 ※2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲
 ※3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲
 ※4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている水域など
 ※5 [水温] 平均水温：平成17～21年度の年平均値の5年平均値、最高水温：平成17～21年度の年最高値の5年平均値
 ※6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成17～21年度の年平均値の5年平均値

(7) 長田川

水域名	BOD等類型	地点名	環境基準点等	現地調査結果								公共用水域調査結果			(参考) 想定される類型					
				水生生物生息状況 ※1		魚類放流 ※3		保護水面 ※4	河床状況	主な横断構造物	魚道	水温 (°C) ※5		全亜鉛濃度	類型	達成期間				
				生物調査		ヒアリング ※2	生物A 該当種					生物B 該当種	平均水温	最高水温			平均値 ※6			
				生物A 該当種	生物B 該当種			確認の有無	確認の有無											
長田川	C	安城橋			生物A 該当種確認なし	無	無	無	砂礫	無	無				生物B	直ちに達成				
		横山橋																		
		記念橋		無								有								
		通学橋																		
		国道23号線橋梁																		
		榎前橋																		
		大坪町2丁目付近																		
		長田橋																		
		澤水橋	基準点																	18.1
油ヶ淵合流部																				

- 注) ※1 調査で確認された魚類 生物B 該当種：コイ、フナ属、オイカワ など
 ※2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲
 ※3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲
 ※4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている水域など
 ※5 [水温] 平均水温：平成 17～21 年度の年平均値の 5 年平均値、 最高水温：平成 17～21 年度の年最高値の 5 年平均値
 ※6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成 17～21 年度の年平均値の 5 年平均値

(8) 半場川

水域名	BOD等類型	地点名	環境基準点等	現地調査結果							公共用水域調査結果			(参考) 想定される類型							
				水生生物生息状況 ※1		魚類放流 ※3		保護水面 ※4	河床状況	主な横断構造物	魚道	水温(°C) ※5		全亜鉛濃度	類型	達成期間					
				生物調査		ヒアリング ※2	生物A該当種					生物B該当種	平均水温				最高水温	平均値 ※6			
				生物A該当種	生物B該当種			確認の有無	確認の有無												
半場川	C	西ノ山橋			生物A該当種確認なし	無	無	無	砂礫	無	無				生物B	直ちに達成					
		前川橋		無								有									
		隅田橋																			
		国道23号線橋梁																			
		宮下橋																			
		三月田橋																			
		西海橋																			
		坂下橋	基準点																17.3	28.4	0.01
		朝鮮川合流																			
		樋橋		無								有									
油ヶ淵合流部																					

- 注) ※1 調査で確認された魚類 生物B該当種：ウナギ、コイ、フナ属 など
 ※2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲
 ※3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲
 ※4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている水域など
 ※5 [水温] 平均水温：平成17～21年度の年平均値の5年平均値、最高水温：平成17～21年度の年最高値の5年平均値
 ※6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成17～21年度の年平均値の5年平均値

(9) 朝鮮川

水域名	BOD等類型	地点名	環境基準点等	現地調査結果								公共用水域調査結果			(参考) 想定される類型	
				水生生物生息状況 ※1		魚類放流 ※3		保護水面 ※4	河床状況	主な横断構造物	魚道	水温(℃) ※5		全亜鉛濃度	類型	達成期間
				生物調査		ヒアリング ※2	生物A該当種					生物B該当種	平均水温	最高水温		
				生物A該当種	生物B該当種			確認の有無	確認の有無							
朝鮮川	C	明治用水横断											生物B	直ちに達成		
		久々井橋		無	有	生物A該当種なし	無	無	無	砂	無	無				
		国道23号線橋梁														
		朝鮮橋														
		前田橋														
		坂下小橋	基準点													
		半場川合流部														
		19.4	28.6	0.03												

- 注) ※1 調査で確認された魚類 生物B該当種：コイ、フナ属、オイカワ など
 ※2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲
 ※3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲
 ※4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている水域など
 ※5 [水温] 平均水温：平成17～21年度の年平均値の5年平均値、最高水温：平成17～21年度の年最高値の5年平均値
 ※6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成17～21年度の年平均値の5年平均値

(10) 阿久比川

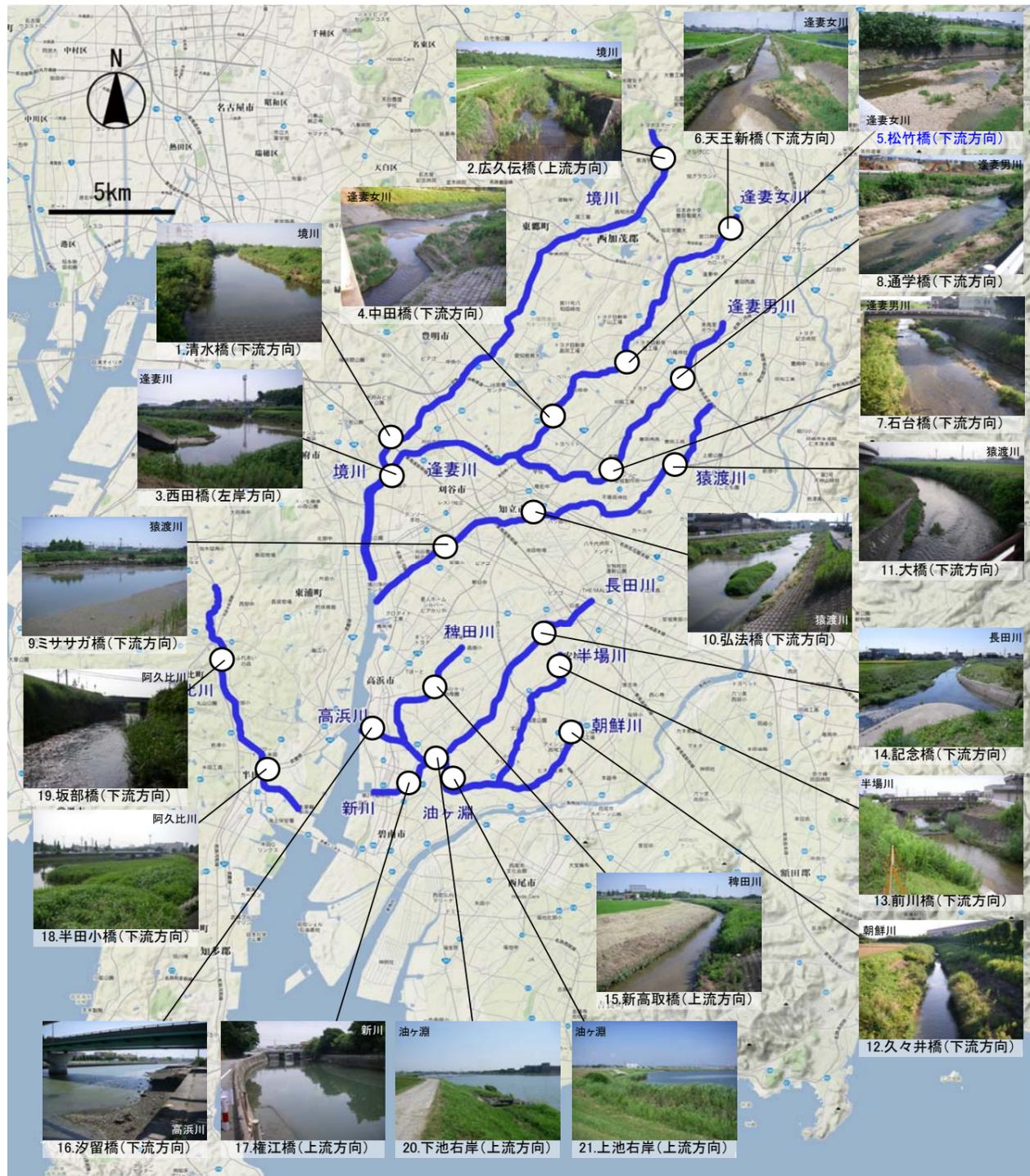
水域名	BOD等類型	地点名	環境基準点等	現地調査結果							公共用水域調査結果			(参考) 想定される類型							
				水生生物生息状況 ※1		魚類放流 ※3		保護水面 ※4	河床状況	主な横断構造物	魚道	水温 (°C) ※5		全亜鉛濃度	類型	達成期間					
				生物調査		ヒアリング ※2	生物A 該当種					生物B 該当種	平均水温				最高水温	平均値 ※6			
				生物A 該当種	生物B 該当種			確認の有無	確認の有無												
阿久比川	C	鎌池川合流			生物A 該当種 確認なし	無	無	無	砂礫	無	無				生物B	直ちに達成					
		阿久比橋																			
		白坂橋																			
		坂部橋		無								有									
		卯之山橋																			
		宮津橋																			
		万栄橋																			
		半田橋																			
		JR武豊線橋梁																			
		半田大橋	基準点																19.6	32.3	0.01
		半田小橋		無								有									
		東雲橋																			
江川橋																					

- 注) ※1 調査で確認された魚類 生物B該当種：コイ、フナ属、オイカワ など
 ※2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲
 ※3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲
 ※4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている水域など
 ※5 [水温] 平均水温：平成17～21年度の年平均値の5年平均値、最高水温：平成17～21年度の年最高値の5年平均値
 ※6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成17～21年度の年平均値の5年平均値

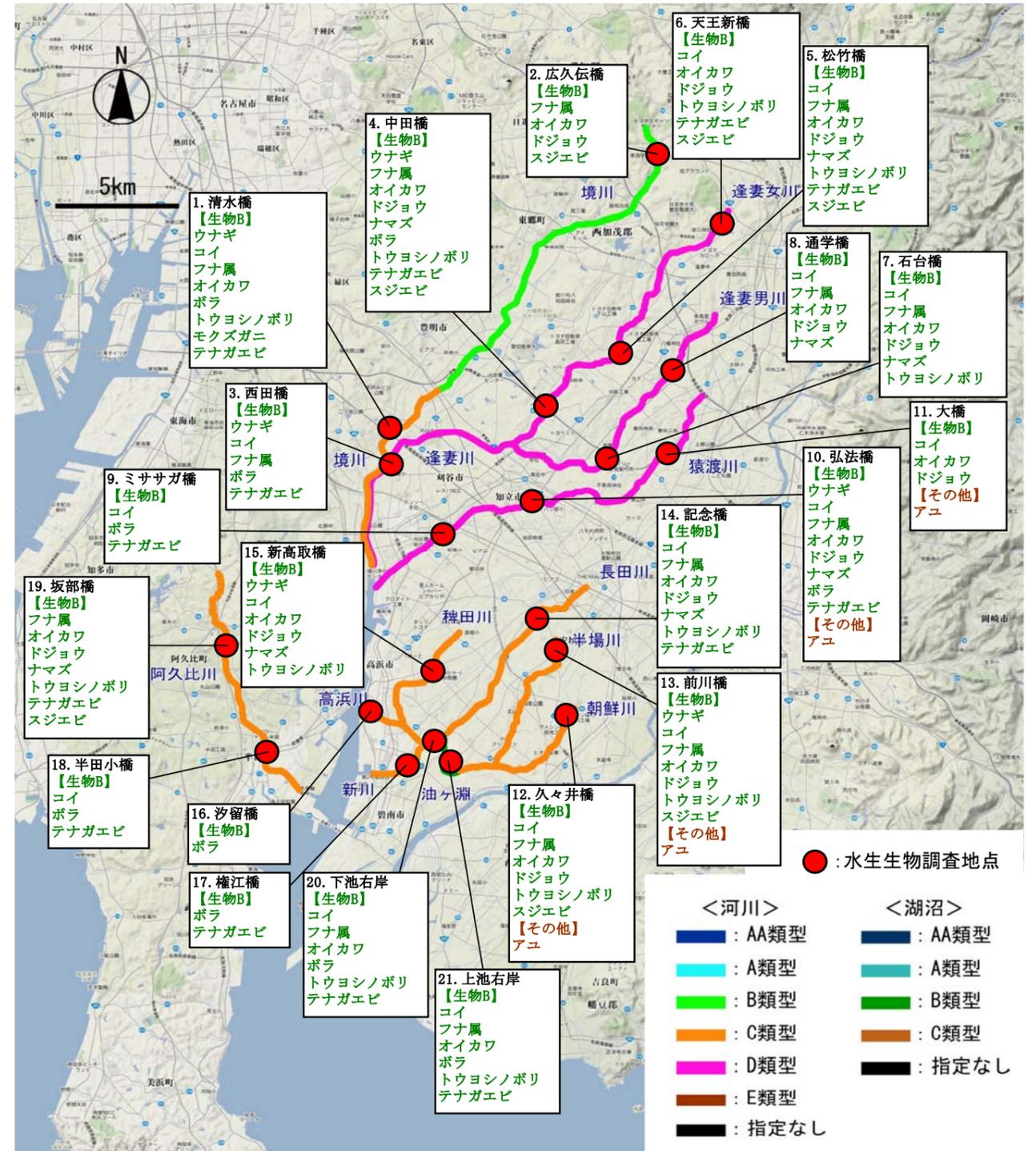
(11) 油ヶ淵

水域名	BOD等類型	地点名	環境基準点等	現地調査結果								公共用水域調査結果			(参考) 想定される類型	
				水生生物生息状況 ※1		魚類放流 ※3		保護水面 ※4	河床状況	主な横断構造物	魚道	水温 (°C) ※5		全亜鉛濃度	類型	達成期間
				生物調査		ヒアリング ※2	生物A該当種					生物B該当種	平均水温			
				生物A該当種	生物B該当種			確認の有無	確認の有無							
油ヶ淵	湖沼B	半場川合流											湖沼生物B	直ちに達成		
		上池右岸		無	有											
		見合橋		無	有											
		角建網		無	有											
		下池右岸		無	有											
		長田川合流														
		中央	基準点							18.2	30.3	0.02				
		高浜川														
新川																

- 注) ※1 調査で確認された魚類 生物B該当種：コイ、フナ属、オイカワ など
 ※2 ヒアリング：漁協、専門家等からのヒアリング結果による生息範囲
 ※3 [魚類放流] 漁協が魚類を放流している範囲
 ※4 [保護水面] 水産資源保護法に基づき保護水面に指定された水域、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている水域など
 ※5 [水温] 平均水温：平成17～21年度の年平均値の5年平均値、最高水温：平成17～21年度の年最高値の5年平均値
 ※6 [全亜鉛濃度] 平均値：平成17～21年度の年平均値の5年平均値



境川等水域における対象河川の状況



水生生物調査結果